

令和3（2021）年度



令和7（2025）年度



調布市は
「2050年ゼロカーボンシティ」
を目指しています

調布市 環境 基本計画

概要版



未来に続く，緑と水あふれるほっとするまち 調布
—私が守る地球，私が育む調布の自然と暮らし—

令和3（2021）年3月改定



調布市

計画改定の背景

調布市環境基本計画（平成 28（2016）年3月）では、社会・経済情勢や環境問題の変化等が生じた際には、必要に応じて計画の見直しを行うとしていました。

現在、調布市の環境行政をめぐる社会情勢等は大きく変化し、上位計画である「調布市基本計画」をはじめとした関連計画が改定されたことから、これらと整合を図りつつ、環境施策を展開するため、調布市環境基本計画（平成 28（2016）年3月）を改定しました。

環境施策をめぐる社会情勢の動向

国際的な動きとして、SDGs（持続可能な開発目標：平成 27（2015）年）が採択され、達成に向けた取組が広がりを見せています。また、地球温暖化対策の新たな枠組みであるパリ協定の発効（平成 28（2016）年）を踏まえた環境施策の展開（脱炭素社会の実現、気候変動による影響への適応など）の重要性が高まっています。

その他、海洋プラスチックごみや、食品ロスの問題も社会問題として注目が高まっています。

さらに、新型コロナウイルス感染症を契機とした「新しい生活様式」により経済・社会システムの変化が生じています。



SDGsの17の目標（ゴール）

計画改定の視点

計画期間の前期の取組を踏まえるとともに、社会情勢の変化等も踏まえ、次の視点に基づき本計画の改定作業を行いました。

改定の視点

- ①強靱で持続可能な社会の実現に向けた取組を推進する
（SDGsの目標達成に向けた貢献、「地域循環共生圏」への対応）
- ②地球温暖化対策をめぐる動向に対応する
（2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにする脱炭素社会・カーボンニュートラルの実現、温室効果ガスの徹底的な削減（緩和策）の推進、気候変動の影響軽減に向けた適応策を強化）
- ③新たな環境問題、経済・社会システムの変化に対応する
（海洋プラスチックごみ問題、食品ロス問題、「新しい生活様式」等への対応）
- ④調布市の特性とこれまでの取組を生かす
（身近な水辺・里山及び生物多様性の保全、都市農地の保全 等）
- ⑤市民、事業者の行動を更に促進する
（問題意識の共有、課題解決に向けた行動の促進）

計画の改定に当たって

With コロナの環境の中で、多くの市民の皆さんから今後の環境に関するご意見をいただくため、様々な市民参加の手法を実践しながら、調布市環境基本計画の改定作業を進めました。

令和元年度

調布市環境基本計画の
中間見直し等に関する
市民アンケート調査
（令和元（2019）年10月）

A: 発送数	3,000
B: 有効回収数	1,321
C: 有効回収率 (B / A × 100)	44.0%



調布市環境基本計画中間報告会
（みんなで語ろう ちょうふの環境のいまとこれから）
（令和2（2020）年1月25日）



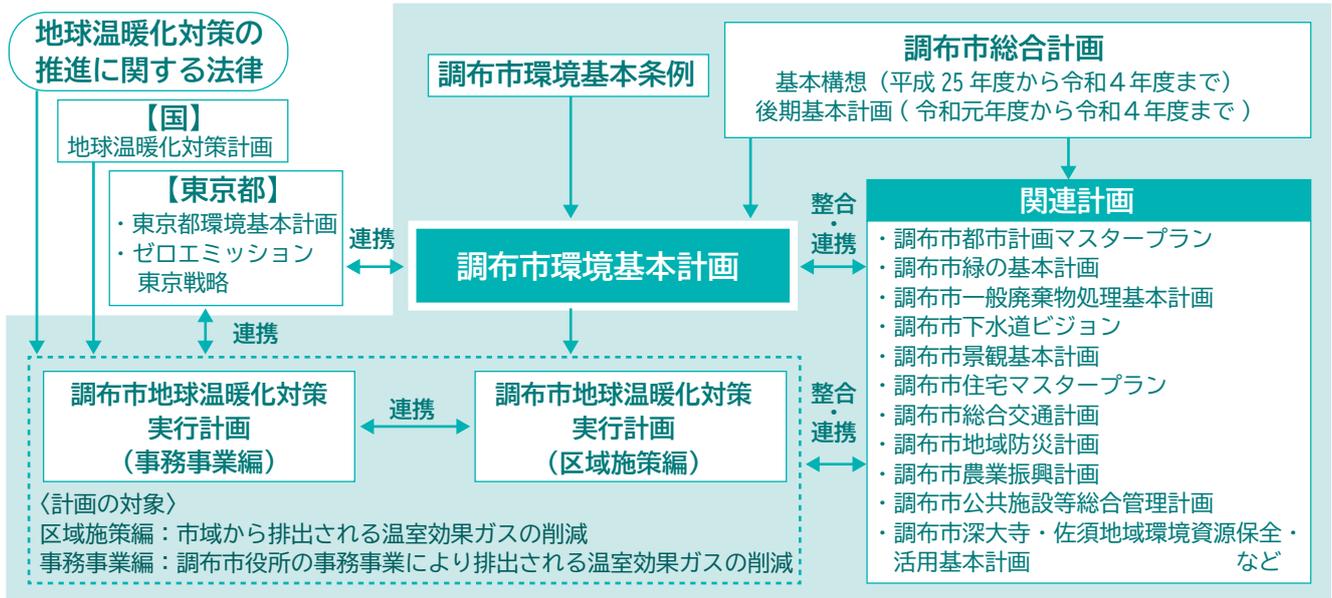
ワークショップの様子

計画の概要

計画の位置付け

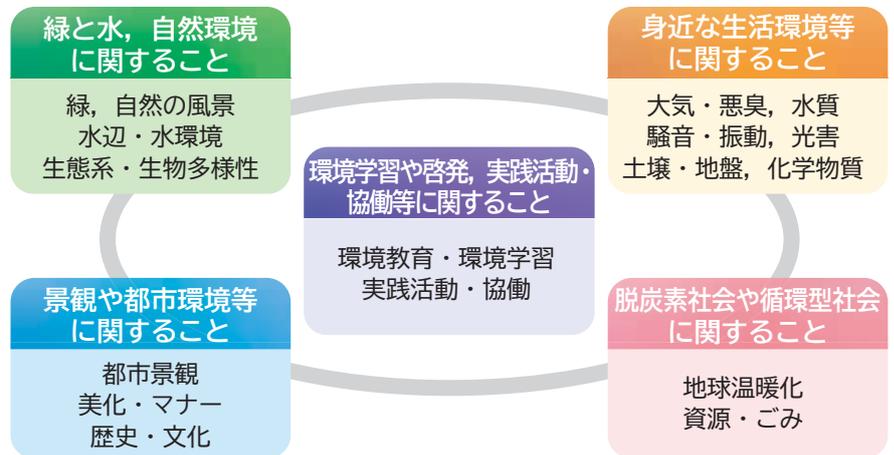
本計画は、「調布市環境基本条例」第9条に基づき策定（改定）するものであり、市の最上位計画である「調布市総合計画」のもとで、環境行政におけるマスタープランとなるものです。

また、国や東京都の動向を踏まえるとともに、本計画を具体的に推進する施策と関連するその他の様々な個別計画とも整合を図ります。



計画が対象とする範囲

本計画では、調布市環境基本条例第5条に示される範囲を基本とし、右に示す5つの観点から、課題解決に向けアプローチしていくこととします。



令和2年度

令和3年度以降

多様な市民参加

(令和2(2020)年10月)

- メール等でのアイデア募集
- 対面型ワークショップ
- オンライン座談会



対面型ワークショップ・オンライン座談会の様子

調布市環境基本計画等改定委員会

(5回開催)



本計画
スタート

市が目指す環境の姿と基本目標

環境は長い歳月をかけて育むべきものであり、より良い環境の保全と回復に向け、取組を長期的な視点を持って推進していく必要があります。

このことにより、本計画では、計画の前期の基本理念や将来像を踏襲し、次のとおりとします。

基本理念 持続可能な人間社会の存続とすべての生きものが共存する
地球，地域環境を保全・回復・創出する

目指す環境の将来像 未来に続く，緑と水あふれるほっとするまち 調布
－私が守る地球，私が育む調布の自然と暮らし－

基本目標	施策の方針	施策	重点プロジェクト
1 豊かな緑と水や 多様な生物を 育むまち	1-(1) 緑と水の保全・再生	1-① 緑の保全	1 市民の心の安らぎ 緑と水を守る プロジェクト
		1-② 水循環の回復と水環境の再生	
		1-③ 都市農地や里山環境の維持・保全	
	1-(2) 生物多様性の保全・活用	1-④ 生物の生息空間の保全	
		1-⑤ 多様な自然環境の活用	
2 人と環境が 調和する 快適で美しいまち	2-(1) 美しい街並みの形成	2-① 景観形成の推進	
		2-② 歴史・文化環境の保全・継承	
	2-(2) 快適な空間の確保	2-③ まちのうるおいの創出	
		2-④ 都市美化の推進	
3 安心して暮らせる 生活環境が 確保されるまち	3-(1) 公害のない 環境の維持	3-① 大気汚染の防止	
		3-② 水質汚濁の防止	
		3-③ 騒音・振動の発生抑制	
		3-④ 化学物質等の対策の推進	
4 脱炭素で 循環型の社会を 目指すまち	4-(1) 脱炭素化に向けた まちづくりの推進	4-① 脱炭素型ライフスタイル・ ビジネススタイルの普及	2 みんなで目指す 環境先進都市 プロジェクト
		4-② 再生可能エネルギー等の利用推進	
		4-③ スマートシティの実現	
		4-④ 気候変動への適応	
	4-(2) 循環型まちづくりの推進	4-⑤ 3Rの推進によるごみの減量	
		4-⑥ ごみの適正処理	
5 みんなの力で より良い環境を 目指すまち	5-(1) 環境教育・環境学習の推進	5-① 環境意識の醸成	3 みんなが主役 環境を学んで 楽しむ プロジェクト
		5-② 学びと活動体験機会の充実	
	5-(2) 連携・協働による 環境保全活動の推進	5-③ 活動の担い手となる人材育成と活動支援	
		5-④ 様々な主体と活動の環 ^わ の拡大	

1

基本目標

豊かな緑と水や多様な生物を育むまち

国分寺崖線の緑や湧水で形成された貴重な自然環境を将来に向けて守り、共生を目指す中で、かつての武蔵野の原風景であった自然豊かな環境の再生を図ります。

関連するSDGsの主なゴール



施策の方針 1-(1)

緑と水の保全・再生

施策 1-① 緑の保全

【施策（取組）の内容】

- 調布を特徴づける緑の保全と維持管理の推進
- 湧水・河川等の水辺環境との一体的な保全



崖線樹林地の保全活動

【関連する主な環境指標】

環境指標	基準値	現況	目標値
公共が保全する緑の面積	146.63ha (平成26年度)	149.27ha (令和元年度)	149.85ha (令和7年度)

施策 1-② 水循環の回復と水環境の再生

【施策（取組）の内容】

- 雨水浸透の推進による湧水保全及び河川水源の涵養
- 健全な水循環の形成に向けた啓発
- 開発事業等における地下水・湧水保全への配慮
- 市民等との協働による水辺環境の維持管理



【関連する環境指標】

環境指標	基準値	現況	目標値
浸透施設等の設置による雨水の浸透能力	66,828m ³ /h (平成26年度)	102,666m ³ /h (令和元年度)	136,400m ³ /h 【H26～R7の累計】 (令和7年度)

施策 1-③ 都市農地や里山環境の維持・保全

【施策（取組）の内容】

- 様々な制度による都市農地の保全と活用
- 里山環境の総合的な維持・保全と活用
- 深大寺・佐須地域における里山風景の保全と活用



深大寺・佐須地域の里山の風景

【関連する主な環境指標】

環境指標	基準値	現況	目標値
市民と協働で保全活動を行う崖線の箇所数	5箇所 (平成26年度)	5箇所 (令和元年度)	8箇所 (令和7年度)

施策の方針 1-(2)

生物多様性の保全・活用

施策 1-④ 生物の生息空間の保全

【施策（取組）の内容】

- 生物多様性の保全に向けた取組の推進
- 生態系ネットワークの形成
- 自然環境や生物に関する調査と情報共有
- 危険な外来生物や害獣等の情報提供



多摩川河川敷における特定外来生物（植物）の駆除活動

【関連する主な環境指標】

環境指標	基準値	現況	目標値
自然環境調査の実施回数	7回 (平成26年度)	23回 (令和元年度)	63回 【H28～R7の累計】 (令和7年度)

施策 1-⑤ 多様な自然環境の活用

【施策（取組）の内容】

- 緑や水辺環境におけるふれあい学習の推進
- 自然環境の活用



多摩川での自然体験などを行う「水辺の楽校」の活動

【関連する環境指標】

環境指標	基準値	現況	目標値
自然体験学習の参加人数	877人 (平成26年度)	5,032人 (令和元年度)	9,000人 【H28～R7の累計】 (令和7年度)

2

基本目標

人と環境が調和する快適で美しいまち

新旧の様々な街並みが調和した都市環境をこれからも守り育てていくとともに、市民のみならず調布市を訪れる全ての人々にとっても、快適な環境を創出していきます。

関連するSDGsの主なゴール
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



施策の方針 2-(1)

美しい街並みの形成

施策2-① 景観形成の推進

【施策（取組）の内容】

- 自然の眺望を活かした都市景観づくり
- 調和のとれた街並みの形成
- 洗練された街並みの保全・創出



「農」の景観形成推進地区範囲
出典：調布市景観計画

【関連する主な環境指標】

環境指標	基準値	現況	目標値
無電柱化道路延長	0 m (平成 26 年度)	[H28～R元の累計] 1,177 m (令和元年度)	[H28～R7の累計] 1,380 m (令和7年度)

施策2-② 歴史・文化環境の保全・継承

【施策（取組）の内容】

- 歴史・文化環境の保全・継承
- 歴史・文化を活かした景観づくりの推進



国指定史跡深大寺城跡

【関連する環境指標】

環境指標	基準値	現況	目標値
調布には優れた景観があると思う市民の割合	82.5 % (平成 30 年度)	85.1 % (令和元年度)	90.0 % (令和4年度)

施策の方針 2-(2)

快適な空間の確保

施策2-③ まちのうるおいの創出

【施策（取組）の内容】

- 緑豊かな環境づくり
- 公園・緑地が有する機能の適切な配置と維持



花いっぱい運動の一環としてラグビーワールドカップに合わせて調布駅前を設置した「おもてなしガーデン」

【関連する主な環境指標】

環境指標	基準値	現況	目標値
花いっぱい運動の実施箇所数	34 箇所 (平成 26 年度)	46 箇所 (令和元年度)	51 箇所 (令和7年度)

施策2-④ 都市美化の推進

【施策（取組）の内容】

- 公衆マナーの遵守を目指した意識啓発
- 市民参加による美化活動の推進
- 受動喫煙防止に向けた屋外喫煙対策の推進
- 美化対策の推進



多摩川クリーン作戦

【関連する主な環境指標】

環境指標	基準値	現況	目標値
美化推進重点地区数	7 地区 (平成 26 年度)	8 地区 (令和元年度)	11 地区 (令和7年度)

3

基本目標

安心して暮らせる生活環境が確保されるまち

従前からの公害への監視を継続し、問題発生等の未然防止に努める一方で、新たに発生するおそれがある様々な環境リスクに対しても適切な対応に努めることにより、安心して暮らせる生活環境を確保していきます。

関連するSDGsの主なゴール
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



施策の方針 3-(1)

公害のない環境の維持

施策3-① 大気汚染の防止

【施策（取組）の内容】

- 事業活動に伴う大気汚染の防止
- 自動車排出ガスによる大気汚染の防止
- 微小粒子状物質(PM2.5)による環境汚染への対応
- 悪臭・臭気等の発生防止



大気汚染測定局
(下石原交差点前大気測定局)

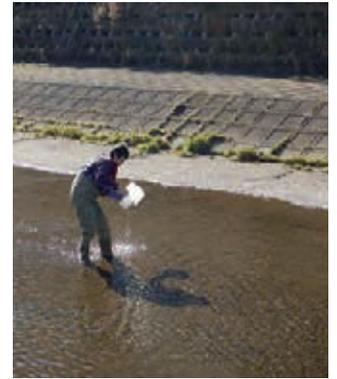
【関連する主な環境指標】

環境指標	基準値	現況	目標値
二酸化窒素(NO _x)の環境基準の年間未達成日数	1日 (平成26年度)	0日 (令和元年度)	0日 (令和7年度)

施策3-② 水質汚濁の防止

【施策（取組）の内容】

- 工場排水の水質汚濁負荷の低減
- 家庭における生活排水対策の推進



河川水質調査の様子

【関連する環境指標】

環境指標	基準値	現況	目標値
雨天時における処理場を含む各吐口からの放流水のBOD値(平均放流水質)	40 mg/L以下 (平成26年度)	9.2 mg/L以下 (令和元年度)	40 mg/L以下 (令和7年度)

施策3-③ 騒音・振動の発生抑制

【施策（取組）の内容】

- 事業活動に伴う騒音・振動の発生抑制
- 道路交通騒音・振動の発生抑制
- 生活騒音の発生抑制



騒音測定の様子

【関連する主な環境指標】

環境指標	基準値	現況	目標値
道路交通騒音の要請限度数値の未達成地点数	1地点 (平成26年度)	0地点 (令和元年度)	0地点 (令和7年度)

施策3-④ 化学物質等の対策の推進

【施策（取組）の内容】

- 有害化学物質による汚染の防止
- 化学物質に関するリスクコミュニケーションの推進
- 地下水保全に向けた調査・規制



公共施設における室内化学物質の測定

【関連する環境指標】

環境指標	基準値	現況	目標値
地下水の水質汚濁に係る環境基準不適合井戸数	0件 (令和元年度)	0件 (令和元年度)	0件 (令和7年度)

4

基本目標

脱炭素で循環型の社会を目指すまち

ライフスタイル・ビジネススタイルの変革を促すとともに、まちづくりも含めた視点から、市域全体の温室効果ガスの更なる削減と気候変動への適応、廃棄物の発生抑制に取り組み、持続可能な社会を構築していきます。

関連するSDGsの主なゴール
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



施策の方針 4-(1) 脱炭素化に向けたまちづくりの推進

施策4-① 脱炭素型ライフスタイル・ビジネススタイルの普及

【施策（取組）の内容】

- 家庭における脱炭素型ライフスタイルの普及
- 事業所における脱炭素型ビジネススタイルの普及
- 市の率先行動
- 地球温暖化に関する環境学習の推進

COOL CHOICE

未来のために、いま選ぼう。(出典：環境省 HP)

環境指標	基準値	現況	目標値
市域から排出されるCO ₂ 排出量	78.1 万t-CO ₂ (平成25年度)	68.4 万t-CO ₂ (平成29年度)	63.3 万t-CO ₂ (令和5年度)

施策4-② 再生可能エネルギー等の利用推進

【施策（取組）の内容】

- 再生可能エネルギー等の利用促進
- 次世代エネルギーに関する普及啓発

公共施設の屋根貸しによる太陽光発電事業

【関連する主な環境指標】

環境指標	基準値	現況	目標値
市民による再生可能エネルギー由来の電力購入割合	1.4% (令和2年度)	1.4% (令和2年度)	5% (令和7年度)

施策4-③ スマートシティの実現

【施策（取組）の内容】

- スマートシティの推進
- 環境に配慮した交通手段の利用促進
- 緑の保全・創出による地球温暖化対策

ZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス) (出典：資源エネルギー庁ホームページ)

【関連する主な環境指標】

環境指標	基準値	現況	目標値
街路灯のLED化割合 (LED化した街路灯基数の割合)	21.0% (平成30年度)	24.6% (令和元年度)	63% (令和7年度)

施策4-④ 気候変動への適応

【施策（取組）の内容】

- 地球温暖化及び気候変動に関する情報発信
- 自然災害への対策
- 暑熱対策の推進

可搬式緑化ベンチ

【関連する主な環境指標】

環境指標	基準値	現況	目標値
地球温暖化及び気候変動に係る情報発信	25回 (平成26年度)	29回 (令和元年度)	30回 (令和7年度)

施策の方針 4-(2) 循環型まちづくりの推進

施策4-⑤ 3Rの推進によるごみの減量

【施策（取組）の内容】

- ごみの発生抑制に向けた啓発
- 市民の自主的な取組の支援
- 事業者の自主的な取組の支援

ごみ減量ポスター

【関連する環境指標】

環境指標	基準値	現況	目標値
市民1人1日当たりの家庭系ごみ排出量	374.2 g/人日 (平成29年度)	378.0 g/人日 (令和元年度)	360 g/人日 (令和4年度)

施策4-⑥ ごみの適正処理

【施策（取組）の内容】

- ごみの適正かつ安定的な処理の確保
- 不法投棄対策の充実
- 災害時における廃棄物処理体制の整備

ごみアプリ

【関連する主な環境指標】

環境指標	基準値	現況	目標値
最終処分量(埋立量)	ゼロ (平成29年度)	ゼロ (令和元年度)	ゼロ (令和4年度)

5

基本目標

みんなの力でより良い環境を目指すまち

調布市の環境に関する様々な情報を、調布市で暮らし、働き、学ぶ子どもから大人までみんなが共有し、みんなで考え、更により良い環境の創出を目指し、各主体がそれぞれ自立しつつ、連携・協働して行動していきます。

関連するSDGsの主なゴール
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



施策の方針 5-(1)

環境教育・環境学習の推進

施策5-① 環境意識の醸成

【施策（取組）の内容】

- 環境情報の効果的な発信
- 学校での環境教育の推進
- 子どもたちへの啓発活動の実施
- 市民の環境意識の醸成



多摩川自然情報館解説員ブログ

【関連する主な環境指標】

環境指標	基準値	現況	目標値
市報や環境年次報告書等による環境情報の提供回数	104回 (平成26年度)	126回 (令和元年度)	130回 (令和7年度)

施策5-② 学びと活動体験機会の充実

【施策（取組）の内容】

- 地域での環境学習
- 活動体験機会の創出



多摩川自然情報館 夏まつり

【関連する環境指標】

環境指標	基準値	現況	目標値
環境学習事業及び多摩川自然情報館で学習した延べ人数	12,403人 (令和元年度)	12,403人 (令和元年度)	12,450人 (令和7年度)

施策の方針 5-(2)

連携・協働による環境保全活動の推進

施策5-③ 活動の担い手となる人材育成と活動支援

【施策（取組）の内容】

- 担い手の育成
- 市民・事業者による環境活動のための支援体制
- 環境保全活動の拠点となる場の提供



多摩川自然情報館ボランティア解説員養成講座

【関連する環境指標】

環境指標	基準値	現況	目標値
活動の担い手となる人材の人数	135人 (令和元年度)	135人 (令和元年度)	170人 (令和7年度)

施策5-④ 様々な主体と活動の環の拡大

【施策（取組）の内容】

- 各種団体等との交流支援・連携
- 広域的な連携の推進



環境フェア

【関連する環境指標】

環境指標	基準値	現況	目標値
環境連携事業数	58回 (平成26年度)	63回 (令和元年度)	70回 (令和7年度)

重点プロジェクト

本計画では、目指す環境の将来像の実現に向け、5つの基本目標を掲げ、基本目標実現のための23の施策を位置付けています。

計画期間内に特に重点的に取り組む主要な事業等について、重点プロジェクトとして位置付け、計画的かつ効率的に施策の成果向上につながるよう実行していきます。

<重点プロジェクトの選定基準>

- 1 時代背景を踏まえ、緊急性があり、かつ、優先的な取組が必要である事業
- 2 市民から強く求められている事業（社会的な要請が強い事業）
- 3 事業効果が高い事業
- 4 市民・市民団体・事業者・市の連携・協働により推進される事業

重点プロジェクト

1

市民の心の安らぎ
緑と水を守る
プロジェクト

重点プロジェクト

2

みんなで目指す
環境先進都市
プロジェクト

重点プロジェクト

3

みんなが主役
環境を学んで楽しむ
プロジェクト

重点プロジェクト

1 市民の心の安らぎ 緑と水を守るプロジェクト

目標

- 1 調布の特徴であり、かけがえのない環境資源である貴重な緑と水を引き続き保全します。
- 2 豊かな緑と水により、多種多様な生きものの命の育みを守ります。

重点事業

- 崖線樹林地等の保全管理
- 協働による緑の保全のための仕組みづくりの検討
- 崖線樹林地の保全管理計画の策定と見直し
- 雨水浸透施設・雨水貯留施設の設置及び雨水利用の推進
- 深大寺・佐須地域農の風景育成地区における農の風景を継承する取組の推進
- 自然環境や生物調査の実施・把握と結果の公表



調布市環境モニターによる植生調査



調布市崖線樹林地 保全管理計画

重点プロジェクト

② みんなで目指す 環境先進都市プロジェクト

目標

- 1 省エネ・節電行動を市民・事業者・市が積極的に行うとともに、再生可能エネルギー由来の電力の選択等を進めていきます。
- 2 進行する地球温暖化に伴う気候変動の適応への取組を進めます。
- 3 貴重な環境資源を維持・保全するとともに、生産・流通・廃棄の過程で発生する二酸化炭素排出量の削減を図るため、更なるごみの発生抑制に取り組みます。

重点事業

- 東京都等の補助事業に関する情報提供
- 住宅の省エネルギー化事例の効果の把握と情報発信
- 再生可能エネルギーの比率の高い電力調達の検討
- 再生可能エネルギー由来の電力の選択に関する普及啓発
- 調布駅周辺での自立分散型エネルギーシステムの導入検討
- 民間と連携したシェアサイクルの実証実験と本格導入に向けた検討
- 市ホームページ、SNS、調布FM等による環境情報発信
- 水害対応に関する個別計画の策定と対策実施
- 食品ロス削減に関する普及啓発
- CHOFUプラスチック・スマートアクションの推進



公共施設の屋根貸しによる太陽光発電事業
(調布ヶ丘地域福祉センター)

重点プロジェクト

③ みんなが主役 環境を学んで楽しむプロジェクト

目標

- 1 市が発信する環境情報をもとに全ての人々が、積極的にその情報を共有します。
- 2 環境教育・環境学習を通じて、全ての人々が楽しみながら環境を学び、持続可能な社会づくりに向けて進んでいきます。

重点事業

- ICTを活用した新たな環境情報発信方法の検討
- 小中学生への環境活動機会の提供
- 幅広い市民を対象とした環境イベントの開催※
- 雑木林ボランティア講座の実施による人材育成講座の実施
- 多摩川自然情報館におけるボランティア解説員養成講座の充実
- 環境活動交流会の開催
- 広域的な環境保全活動に向けた他自治体等との連携



環境講座で作成した水車（右上）と風車（右下）

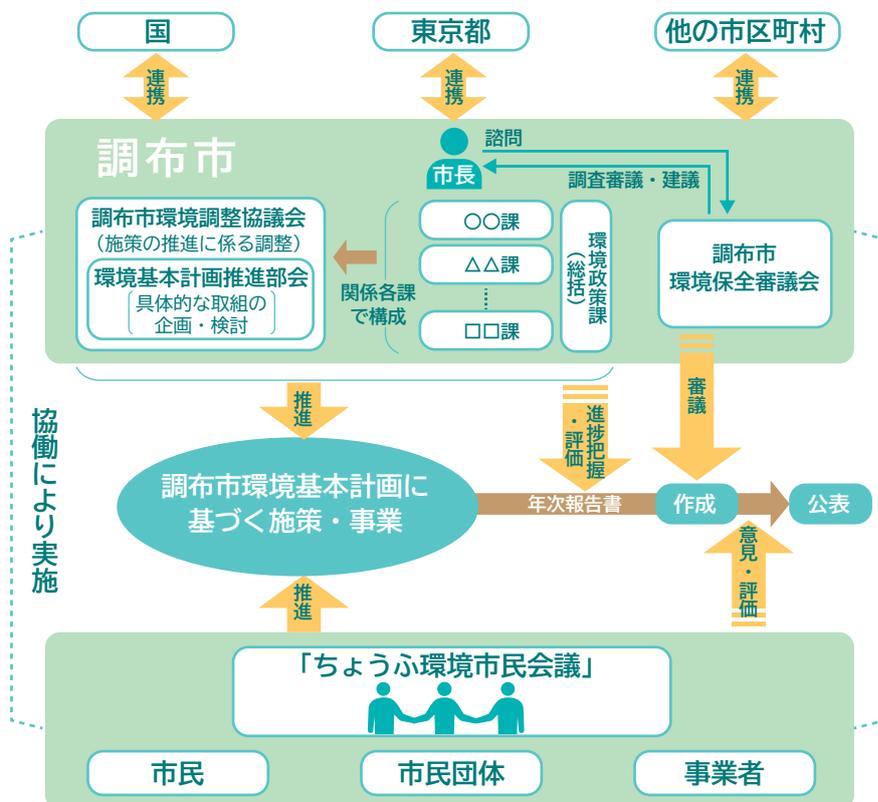
※市民ワークショップ等の意見例も踏まえ、工夫しながら環境イベント等を実施します。

計画の推進・管理体制

推進体制

調布市が目指す環境の将来像「未来に続く、緑と水あふれるほっとするまち 調布」の実現に向けて、本計画の着実な推進を図るためには、市民・市民団体・事業者・市といった、それぞれの主体がお互いの役割を理解するとともに、自主的・主体的に自らができること、協力していくことを理解して行動することが大切です。

このため、右図に示す体制で各主体が連携・協働して計画を推進します。

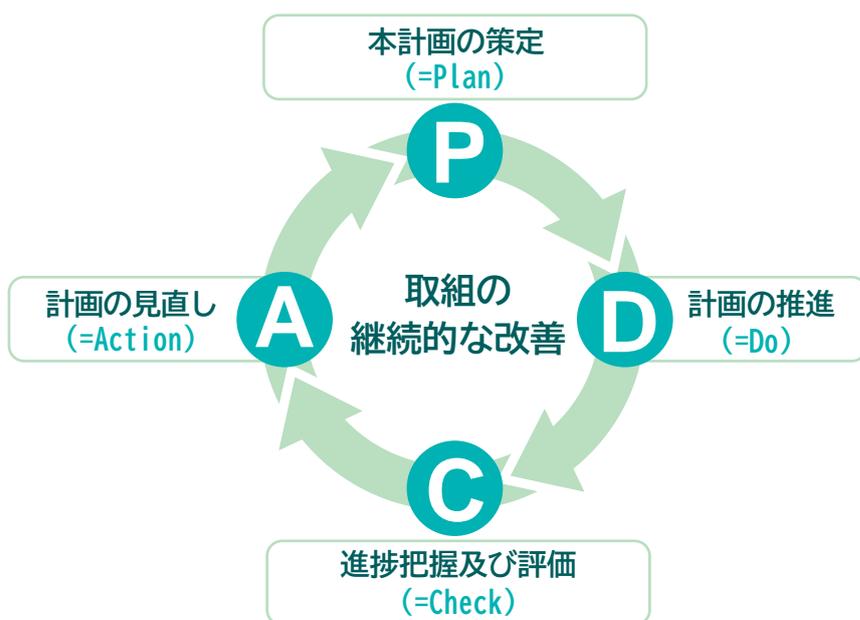


調布市環境基本計画の推進体制

進行管理

本計画は、毎年度、庁内関係各課において所管の施策を確認・評価したのち、「調布市環境保全審議会」や「ちょうふ環境市民会議」の意見や助言を取り入れ、環境年次報告書として公表します。

また、市民・市民団体・事業者からも随時意見をいただき、継続的な改善につなげていきます。



調布市環境基本計画【概要版】 令和3（2021）年3月改定

編集・発行：調布市環境部環境政策課

【TEL】042-481-7086・7087 【FAX】042-481-7550

【E-mail】kankyou@w2.city.chofu.tokyo.jp

刊行物番号

2020-185